

「手話でつながるために」

手話奉仕員養成講座に参加した人と、ろう者*からそれぞれお話を聞きました。



共に学び励まし合う
仲間が大きな財産

有我 マチ子 さん

還暦が過ぎ、子どもたちも独立した今、何かを始めたいと考えている時に、手話奉仕員養成講座を知り受講しました。

初日は緊張しましたが、温かい雰囲気の中で毎週待ち遠しい気持ちのまま閉講式を迎えることができました。

手話は、見て分かるように表情豊かに表現することが大切です。そのために、鏡を見ながら「悲しい」、「うれしい」と気持ちを込めて練習をしました。

一番の喜びは、共に学び励まし合う仲間ができたことです。私にとって大きな財産となりました。これからは、コツコツ覚え、その場の状況や情報を伝えられるようになるのが私の夢です。

条例施行で多くの市民
と出会い相互理解へつ
ながることを期待

須賀川地方聴力障害者会
吉田 ひろ子 さん



「手話」は、長きにわたり禁止されていた経過があります。先生が話される口元に集中しても十分に読み取ることができず、苦しい思いをした学生時代。病状を手話で伝えても理解してもらえず、聞こえる母が代わりに説明してやっと通じる。母がいなくなったらどうしたらよいのだろうと不安に感じたり…。「伝わらない、理解してもらえない」「情報社会から取り残されている」ということが日常的にたくさんありました。

しかし、手話サークルと共に「ろう者や手話の理解を広げる」という活動を続け、平成10年4月から医療、教育、職場などで手話通訳者の派遣制度が始まり、心から安心したことを思い出します。

また、平成12年4月には社会福祉課内に手話通訳者が配置され、市からの通知内容がつかめずに困っても担当者の説明を手話で理解でき、自分の思いも伝えることが可能となり市役所が身近になりました。

私は、市主催手話奉仕員養成講座の講師を務め、市民の方々との交流も広がっています。今回の手話言語条例施行では、色々な場面を通して多くの市民の方々、子ども達との出会いが生まれ、より一層、手話が広がり、相互の理解へとつながることを期待しています。

※ろう者とは

耳が聞こえない人のうち、手話という言語を持ち、手話でコミュニケーションをとって、日常生活を送る人。

市手話奉仕員養成講座Ⅰ(入門)の開催

聴覚障がい者に対する理解・認識を深め、手話による日常会話ができ、市登録通訳者として活動していただく講座

日時 5月9日(木)～9月5日(木)全17回 午前10時～正午

会場 市民交流センター tette

受講資格 初めて手話を学ぶ人、または再度受講を希望する人

定員 25人

受講料 3,240円(テキスト代)

講師 須賀川地方聴力障害者会

締め切り 4月23日(火)

申込方法 社会福祉課へ電話またはファックスでお申し込みください。

☎社会福祉課 ☎(88)8112、ファックス(88)8119

平成31年4月1日施行

市手話言語条例



条例の目的 「手話は言語である」という認識に基づき、次の役割を明らかにすることで、全ての市民が共に生きる地域社会を実現することを目指します。

▶市の責務 手話を必要とする人が手話を使用しやすい環境を整備するため、必要な施策を推進します。

▶市民の役割 手話に対する理解を深め、市が推進する施策に協力するよう努めます。

▶事業者の役割 手話を必要とする人が利用しやすいサービスの提供、働きやすい環境の整備に努めます。

▶ろう者等の役割 手話の普及などに努めます。



左右の手が
中心で輪となり
「つながる」を表現する
手話となります

■特集 市手話言語条例を施行

手話で「つながる」思い

市では、4月1日に「須賀川市手話言語条例」を施行しました。今月号では、手話通訳者や手話を使ってコミュニケーションをとる人たちを紹介いたします。手で話し、目で聞く手話について考えてみましょう。

手話で「つながる」思い

この条例は、手話を「言語」として位置付けています。条例が施行され手話に対する理解を深め、手話の普及により、手話を必要とする人があらゆる場面で情報を得ることが出来ます。聞こえる人も聞こえない人も互いに支え合いながら安心して暮らすことができる地域社会を目指しています。

これらの実現に向け、社会福祉課の窓口へ引き続き手話通訳者を配置するほか、手話通訳者や要約筆記者の派遣、手話奉仕員養成講座の開催などの取り組みを行い、共に暮らしやすい社会を築いていきます。

☎社会福祉課 ☎(88)8112



子どもの祭典での手話コーナー

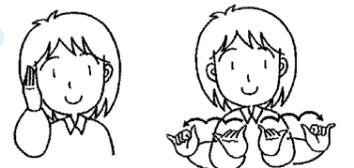


サポセンフェスティバルでの要約筆記

初心者のための手話コーナー

●つながるコミュニケーション②

ろう者



右手で右耳をふさぐ(聞こえない様子) 親指と小指を立てた両手を左右にゆらしながら離していく

※一般社団法人福島県聴覚障害者協会「ろう者との対話のために」より